

2026 年 2 月度 (第 422 回) ライフサイエンス分科会

開催日時：2026 年 2 月 20 日 (金) 15:00~17:00

開催場所：対面：(株)サンメディア会議室、オンライン：Zoom

参加人数：24 名 (現地参加：13 名/オンライン参加：11 名)

タイトル：「EBM で期待されるインフォプロの為の予備知識」および「Systematic Review (SR) における文献検索」

ご講演者：慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 HTA 公的分析研究室 眞喜志様

記入者：東レ 大山

1. 眞喜志様 ご講演について

(1) ご講演の概要

- ・ Evidence synthesis におけるインフォプロの役割について、Evidence synthesis の現在の状況、具体的な実施手順と留意事項、共著者資格についての講演
- ・ Evidence synthesis はシステマティックレビューをはじめとする文献の統合研究。システマティックレビューに関連する論文は、医学・ライフサイエンス以外の分野でも、国内、海外ともに増加傾向。
- ・ システマティックレビューについて：
 - ・ システマティックレビュー方法論については Cochrane や JBI 等のガイドラインや GRADE があるが、Cochrane のシステマティックレビューでも検索式のエラーが無いとは言えない。
 - ・ 主データベース用検索式を構築したら PRESS(Peer Review of Electronic Search Strategies: Guideline Statement)などで、検索式ピアレビューを受けられるので、活用を推奨する。
 - ・ スクリーニングに使用できるツールは複数あるが、それぞれにできること、できないことがあるため、費用や利用態様に応じて選択すると良い。
 - ・ 検索方法の記述事項等について、検索の透明性と再現性をもって報告するガイドラインとして「PRISMA-S」(an extension to the PRISMA Statement for Reporting Literature Searches in Systematic Reviews)の紹介あり。
 - ・ 検索式は検索日やDBにより機能の変更などがあり、完全な検索式として残しておかないと検索の再現性は担保できない。
 - ・ システマティックレビューの検証が行われた実例についてご紹介いただいた。PRISMA 声明チェックリストに従い、各チェック項目毎に2人のレビューアーが独立して判定、検索実施の適正を検証するものであって、今後の改善に向けての指針も示されている。

(2) 質疑応答

- ・ Methods での記載方法で参考になる文献について、PMID：37264462、37946107、34779897 の 3 件を紹介いただいた。
- ・ レビュー論文への生成 AI（特にまとめ機能）、文献検索システムで提供される AI アシスタント機能の影響について議論した。リサーチクエスチョンを持って文献調査を行う場合の資料としての他、信頼のおける情報源としてレビュー論文のニーズがあること、執筆したいという意欲を持つ研究者の存在から、レビュー論文は今後も出版されるだろうという結論となった。
- ・ 医中誌に収録されている EBM について、出席者からコメントがあった。
- ・ 検索依頼についての質問は主に X の DM が多く、メールによる相談もある、とのことだった。
- ・ 今回の具体例については、レビュースタディのための報告ガイドライン：看護研究. 2025.58(2)164-179. も参照のこと。

2. 連絡・協議事項

2026 年の運営について

- ・ メンバーへの運営に関するアンケート結果の報告
- ・ 2026 年度のスケジュール案について（4 回／年開催、主査・連絡係 1 回、企画 G3 回）

3. その他

例会後、有志による新年会を行った。

4. 次回以降の予定

日時：2026 年 4 月 16 日（木）

場所：Web 開催（予定）

以上